

提出日： 2023 年 5 月 8 日

## 研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部	教授	三船 毅

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日 2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日 3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日 4. 2022年9月21日 ～ 2023年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	本研究は有権者の棄権が政党間競争に及ぼす影響をフォーマルモデルにより理論的に分析することである。 政治参加の対極である棄権に関しては、政治過程、選挙過程に対して如何なる影響を及ぼすのかについては理論的、実証的にも研究されていないのである。 これらの問題を解明するために新たなモデルの基礎をJ.Coleman(1973,90)の「行為の線型モデル」として、選挙における有権者の棄権が政党間競争に及ぼす影響を及ぼすのかを理論的に考察した。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	このモデルを適用して解明されたことは、以下のことである。2つの政党、政党Aと政党Bがあり、もしA党よりもB党の政策に対する有権者の関心が大きな比率で低下するならば、勢力比はさらに小さくなり、政党A党の勢力は安定して相対的には拡大しているのである。つまり、現実の政治に即して考えるならば、政権交代が起こり難いような国家では、長期的な棄権率の増加は第1党(与党)の勢力を安定強化させてしまうのである。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	この分析枠組・モデルをさらに発展させ、以下の3点を理論的に検証し、棄権がもたらす民主主義の危機を明らかにする。 (1) 棄権の発生メカニズム: 政党間効用差と疎外感による棄権の発生メカニズムの再構築。 (2) 政党・候補数が及ぼす影響: 政党数が多ければ票と政策の交換過程で有権者の政党・政策に対する制御能力が低下し棄権増加の可能性を明らかにする。 (3) 一票の価値: 選挙は政策と投票の交換であるとして、その交換レートが棄権に及ぼす影響を明らかにする。